

生徒を理解するということ

江尻京子

本校では、生徒指導の充実のために教育相談を重視し、生徒理解を図ろうと努力しています。しかし、定期的な教育相談日を設けても、生徒の自主來談が少ないと、相対しても生徒が本当のこととなかなか話してくれないという悩みを持つています。

生徒を理解することはどういうことなのでしょうか。そして、その方法はどうあるべきなのでしょうか。Sの例をとつて考えてみます。

Sは、三年生になつてから授業態度が悪くなり、注意に対しても反抗的である。昨年は生徒会長までやつたのに今年は落選、級友からその行動が批判され信用を失っている。当然、職員間でも問題として取り上げられていた。

先月の美術の授業で、準備物を忘れてきたといふSを教室へ取りに行かせた。帰ってきたSに「あつた?」と聞くと、「あんなもの捨てた」と吐き出すような返事、そして、関係のない本をおもむろにして読むようなそぶり。思わずわたしはその本を取り上げて、

頭をピシャリとやつてしまつた。

突然のこととで、しかも大きな音がしたので、Sも一瞬驚いた様子であった。

Sに対しても、このクラスの中でも、こんなことは初めてのことであり、自分自身びっくりしてしまつた。そのあとわたしは、○去年までの明るく中学生らしいSの印象と、今のSの態度○この一年は進路決定などで重要な時期であること○一時間の授業の大切さと、二度とない今日という日を真剣に生きることの美しさ、をミラーの作品を例にとって話した。

Sは黙つて聞いていたが、意外にも大きな涙をポトリとひざに落としたのだ。大きな体のSが急にかわいそうに思えてきた。わたしは、用具を与えて授業を再開した。

翌朝、Sが職員室に現われたのを見たとき、昨日からSのことが心にわだかまっていたわたしは、不安と期待とが入り混じった気持ちで緊張した。Sはわたしのところにくると、
「先生、昨日はすみませんでした」と、ぱつりと一言。
「これからはがんばりなさい」

わたしもその一言だけ言つたが、Sはそれにうなづいて出ていった。その日一日、わたしは充実した気持ちで授業を行つた。

放課後、スケッチブックを持ったSに廊下で会つたので、声を掛けると、「少し遅れたので家でやつてくれ」とS。次の週Sはりっぱに作品を完成して提出した。

とS。次の週Sはりっぱに作品を完成とS。次の週Sはりっぱに作品を完成して提出した。

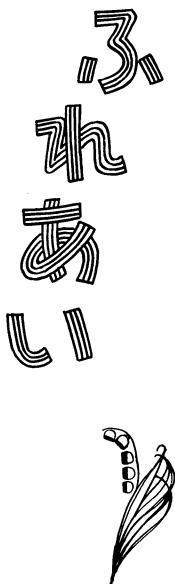
これから、Sがどう変わつていくかはわかりませんが、わたしは、このどこにでもあるよくなきごとの中から真剣にしかることの重要さを知つたような気がしました。生徒を本気でしかることは、生徒との触れ合い、生徒理解の第一歩なのかも知れません。生徒も先生の本気さを、本気でしかつくれることを待つていると思います。

Sによつて生徒は、自分が認められたという実感を持つのではないかと思うのです。わたしは、それまではSを注意することをためらつていたようです。つまり、わたしはSを知つてはいたが、理解まではしていなかつたの

先生は、いつも生徒たちの味方なんだと、いう信頼関係を作ることがなにより大事です。生徒ほど、自分が信頼している、そして自分が信頼されている、人との約束を、義理堅く守る人間はいると思うからです。

(双葉郡広野町立広野中学校教諭)

教育隨想



です。